



2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年8月3日

上場会社名 荒川化学工業株式会社 上場取引所 東
コード番号 4968 URL <https://www.arakawachem.co.jp/>
代表者(役職名) 代表取締役社長(氏名) 宇根 高司
問合せ先責任者(役職名) 常務取締役管理本部長(氏名) 延廣 徹 (TEL) 06-6209-8500
四半期報告書提出予定日 2023年8月9日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	17,298	△18.3	△834	—	△670	—	△314	—
2023年3月期第1四半期	21,161	7.7	571	△66.4	722	△60.5	376	△70.4

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 212百万円(△71.5%) 2023年3月期第1四半期 743百万円(△63.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	△15.84	—
2023年3月期第1四半期	19.00	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	118,322	56,264	45.9
2023年3月期	119,035	56,509	45.4

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 54,274百万円 2023年3月期 54,082百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年3月期	円 銭 —	円 銭 24.00	円 銭 —	円 銭 24.00	円 銭 48.00
2024年3月期	—	—	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	24.00	—	24.00	48.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	40,000	△4.1	△2,000	—	△2,100	—	△1,800	—	△90.73
通期	83,000	4.5	△1,800	—	△2,000	—	△1,800	—	△90.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期1Q	20,652,400株	2023年3月期	20,652,400株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	813,491株	2023年3月期	813,491株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期1Q	19,838,909株	2023年3月期1Q	19,839,009株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間の世界経済は、一部の地域を除き緩やかに持ち直しているものの、依然としてウクライナ情勢の長期化、原油・エネルギー価格の高止まり、各国の金融政策に伴う影響等、景気の下振れ懸念が続いております。また、国内経済においても、景気は緩やかに回復し、生産は持ち直しの兆しがみられるものの、海外景気の下振れや供給面での制約、物価上昇、為替変動などのリスクに留意することが必要な情勢が続いています。

このような環境のもと、当社グループにおきましては、2021年度よりスタートしました第5次中期5ヵ年経営実行計画の方針（KIZUNA経営の推進とKIZUNA指標の達成）に沿った重点施策を進め、コア技術・素材を中核とした事業ポートフォリオ改革や新事業の創出などによる持続可能な地球環境と社会を実現するための取り組みに注力しております。業績面では、高付加価値製品の拡販、収益改善策に取り組んでおりますが、原材料価格やエネルギーコストが高止まりしていること、半導体不況による電子部品の需要環境低迷が継続していることに加え、5月下旬から連続運転を開始した千葉アルコン製造株式会社の減価償却費の増加が収益性に大きく影響しました。なお、荒川ヨーロッパ社（ドイツ）は、水素化石油樹脂の製造を2023年4月上旬に終了しましたが、販売拠点としての事業活動は継続しています。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は172億98百万円（前年同期比18.3%減）、営業損失は8億34百万円（前年同期は営業利益5億71百万円）、経常損失は6億70百万円（前年同期は経常利益7億22百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は3億14百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益3億76百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。なお、セグメント区分の売上高はセグメント間の内部売上高を含んでおりません。

<機能性コーティング事業>

電機・精密機器関連業界は、世界的な半導体不況の長期化や中国における景気低迷などを背景としたスマートフォン、PC、家電の生産調整により、電子部品などの需要が低調に推移しました。このような環境のもと、当事業におきましては、機能性コーティング材料用の光硬化型樹脂はスマートフォンやディスプレイ関連分野での在庫調整の長期化により売上高は減少しました。また、印刷インキ用樹脂は出版分野の市場縮小が加速しており、売上高は減少しました。

その結果、売上高は35億36百万円（前年同期比14.2%減）、セグメント利益は33百万円（同84.7%減）となりました。

<製紙・環境事業>

製紙業界は、eコマース（電子商取引）市場の世界的な成長にともない堅調に推移していた段ボール原紙など板紙の国内需要が前下期以降低調に推移しています。このような環境のもと、当事業におきましては、原材料価格やエネルギーコストの高止まり、国内での需要低迷の影響を受けましたが、海外での板紙向け紙力増強剤が堅調に推移し、収益性が改善しました。

その結果、売上高は47億8百万円（前年同期比4.2%減）、セグメント利益は89百万円（同21.0%増）となりました。

<粘接着・バイオマス事業>

粘着・接着剤業界は、世界的に紙おむつ向け接着剤の需要が堅調に推移しましたが、自動車関連分野では本格的な回復には至っておりません。このような環境のもと、当事業におきましては、ロジンや石化原料の価格の高止まりに加えて、販売が低調に推移しました。

その結果、売上高は62億23百万円（前年同期比27.3%減）、セグメント損失は千葉アルコン製造株式会社における減価償却費が大きく影響し、9億44百万円（前年同期はセグメント損失42百万円）となりました。

<ファイン・エレクトロニクス事業>

電子工業業界は、世界的な半導体不況の長期化や中国における景気低迷などを背景としたスマートフォン、PC、家電、HDDの生産調整により、電子部品などの需要が低調に推移しました。このような環境のもと、当事業におきましては、精密部品洗浄剤は堅調でしたが、ファインケミカル製品、精密研磨剤および電子材料用配合製品は低調に推移しました。

その結果、売上高は28億12百万円（前年同期比19.5%減）、セグメント損失は98百万円（前年同期はセグメント利益1億66百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ7億12百万円減少し、1,183億22百万円となりました。主な要因は、商品及び製品が10億39百万円、投資有価証券が12億38百万円増加しましたが、現金及び預金が11億90百万円、受取手形及び売掛金が5億16百万円減少したことによります。

負債は、短期借入金が21億7百万円増加しましたが、支払手形及び買掛金が14億8百万円、長期借入金が3億13百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ4億68百万円減少し、620億57百万円となりました。

純資産は、利益剰余金が減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ2億44百万円減少し、562億64百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想につきましては、2023年5月11日に公表しました業績予想に修正はありませんが、今後修正が生じる場合には速やかにお知らせいたします。依然としてウクライナ情勢の長期化や原油・エネルギー価格の高止まり、長引く在庫調整、各国の金融政策に伴う影響など、国内外の経済の先行きは見通しがたい状況にあります。

当社グループにおきましては、ロジンや石化原料などの原材料価格の高止まりに加え、電力をはじめとするエネルギー価格高騰による収益性の低下に対応した価格転嫁や、さらなるコストダウンなどを進めてまいります。

また、千葉アルコン製造株式会社は、2023年5月下旬から連続運転を開始しております。千葉アルコン製造株式会社における減価償却費は多額となるため、当面の収益性を押し下げる要因となりますが、中長期的な成長市場の需要に応えるべく、水島工場と合わせた2拠点供給体制によるグローバル販売戦略の再構築を進め、水素化石油樹脂の安定供給と収益性の向上を図ってまいります。

(参考) 千葉アルコン製造株式会社の減価償却費 (予想)

金額：百万円

2022年度 (実績)	2023年度	2024年度	2025年度
1,043	約2,400	約1,900	約1,500

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,140	9,950
受取手形及び売掛金	23,461	22,945
電子記録債権	1,965	2,103
商品及び製品	12,609	13,649
仕掛品	1,649	1,692
原材料及び貯蔵品	9,954	9,063
その他	2,129	1,806
貸倒引当金	△110	△114
流動資産合計	62,799	61,096
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	16,628	16,472
機械装置及び運搬具（純額）	14,809	14,254
土地	4,993	4,996
建設仮勘定	2,927	3,383
その他（純額）	1,083	1,049
有形固定資産合計	40,442	40,156
無形固定資産	1,678	1,639
投資その他の資産		
投資有価証券	7,837	9,075
退職給付に係る資産	3,895	3,961
繰延税金資産	231	236
その他	322	320
貸倒引当金	△75	△77
投資その他の資産合計	12,210	13,517
固定資産合計	54,331	55,313
繰延資産		
開業費	1,904	1,911
繰延資産合計	1,904	1,911
資産合計	119,035	118,322

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,973	8,565
電子記録債務	1,074	1,107
短期借入金	19,645	21,752
未払法人税等	336	332
未払消費税等	67	160
賞与引当金	1,036	582
修繕引当金	414	442
事業整理損失引当金	1,179	1,215
設備関係支払手形	219	220
その他	8,167	7,250
流動負債合計	42,113	41,629
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	5,407	5,093
繰延税金負債	2,372	2,703
退職給付に係る負債	298	305
資産除去債務	2,161	2,180
その他	172	145
固定負債合計	20,412	20,428
負債合計	62,526	62,057
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,343	3,343
資本剰余金	3,564	3,564
利益剰余金	40,922	40,151
自己株式	△1,211	△1,211
株主資本合計	46,618	45,847
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,933	3,784
為替換算調整勘定	2,819	2,986
退職給付に係る調整累計額	1,710	1,655
その他の包括利益累計額合計	7,464	8,426
非支配株主持分	2,426	1,990
純資産合計	56,509	56,264
負債純資産合計	119,035	118,322

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	21,161	17,298
売上原価	16,830	14,585
売上総利益	4,331	2,712
販売費及び一般管理費	3,759	3,547
営業利益又は営業損失(△)	571	△834
営業外収益		
受取利息	3	21
受取配当金	82	77
不動産賃貸料	24	10
為替差益	309	85
その他	29	59
営業外収益合計	449	254
営業外費用		
支払利息	48	66
修繕引当金繰入額	210	-
その他	39	23
営業外費用合計	298	90
経常利益又は経常損失(△)	722	△670
特別利益		
固定資産売却益	0	4
投資有価証券売却益	-	38
特別利益合計	0	43
特別損失		
固定資産除売却損	9	36
特別損失合計	9	36
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	713	△663
法人税、住民税及び事業税	170	135
法人税等調整額	157	△25
法人税等合計	328	109
四半期純利益又は四半期純損失(△)	384	△773
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	7	△459
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	376	△314

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	384	△773
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△468	850
為替換算調整勘定	867	189
退職給付に係る調整額	△40	△55
その他の包括利益合計	358	985
四半期包括利益	743	212
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	679	648
非支配株主に係る四半期包括利益	64	△436

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	機能性 コーティング	製紙・環境	粘接着・ バイオマス	ファイン・ エレクトロ ニクス	計		
売上高							
外部顧客への売上高	4,119	4,916	8,560	3,492	21,089	72	21,161
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	7	7
計	4,119	4,916	8,560	3,492	21,089	80	21,169
セグメント利益又は損失(△)	220	73	△42	166	418	9	427

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険、不動産管理等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	418
「その他」の区分の利益	9
全社費用の配賦差額(注) 1	123
コーポレート研究開発費用(注) 2	△102
営業外損益(注) 3	123
四半期連結損益計算書の営業利益	571

(注) 1 全社費用の配賦差額は、主に報告セグメントに予定配賦した一般管理費の差額であります。

2 コーポレート研究開発費用は、中長期での成長の源泉となる、報告セグメントに配賦しない新規研究開発費用であります。

3 営業外損益は、主に報告セグメントに計上されている営業外損益項目であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	機能性 コーティング	製紙・環境	粘接着・ バイオマス	ファイン・ エレクトロ ニクス	計		
売上高							
外部顧客への売上高	3,536	4,708	6,223	2,812	17,281	17	17,298
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	7	7
計	3,536	4,708	6,223	2,812	17,281	24	17,306
セグメント利益又は損失(△)	33	89	△944	△98	△920	7	△913

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険、不動産管理等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△920
「その他」の区分の利益	7
全社費用の配賦差額(注) 1	223
コーポレート研究開発費用(注) 2	△96
営業外損益(注) 3	△47
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△834

(注) 1 全社費用の配賦差額は、主に報告セグメントに予定配賦した一般管理費の差額であります。

2 コーポレート研究開発費用は、中長期での成長の源泉となる、報告セグメントに配賦しない新規研究開発費用であります。

3 営業外損益は、主に報告セグメントに計上されている営業外損益項目であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。